

社会福祉士及び介護福祉士国家試験における学習支援の検討

松 永 繁

新潟医療福祉大学

Consideration of learning support for national examination of certified social workers and certified care workers

Matsunaga Shigeru

Niigata University of Health and Welfare

抄録：社会福祉士及び介護福祉士の国家試験（以下、国家試験）の学習の基本は、自己学習であり、自己学習の成果が国家試験の合否を決めるといってもよい。この自己学習で重要となるのが学習方略の修得である。

本稿では、自己調整学習理論の枠組みに拠りながら、筆者のこれまでの国家試験に向けた教育実践を踏まえ、社会福祉士及び介護福祉士の国家試験の学習支援について検討していく。

学習者のニーズは、自分の「知らない」「わかっていない」ことの把握以降の学習方略の獲得である。つまり、具体的にどの教材を、どのように使用していけばよいかという条件的知識の獲得・発達に向けた支援が求められる。

結論として、自己調整学習が行えるように具体的なスキル獲得を目的とした学習支援が必要である。

キーワード：自己調整学習、介護福祉士、社会福祉士、国家試験

1 はじめに

大学・専門学校等の社会福祉士及び介護福祉士養成校では、国家資格である社会福祉士及び介護福祉士の資格取得に向けた国家試験対策が行われている。社会福祉士及び介護福祉士の国家試験（以下、国家試験）の学習の基本は、自己学習であり、その自己学習の成果が国家試験の合否を決めるといってもよい。

この自己学習で重要となるのが学習方略の修得である。集中力やモチベーション、基礎学力も重要であるが、それだけではなく、国家試験の受験に関した学習方法の修得も必要となる。

しかし、国家試験受験を目指す学生は、国家試験に関する学習方略が獲得できていない場合もある。

この背景は、筆記試験を課さない試験により学校に入学することで、試験に向けた学習方法自体が分

からないということもある。よって、まず、国家試験に向けた学習方法を伝え、自己学習ができるように支援する必要性が考えられる。

隣接領域における国家試験に関する学習支援についての先行研究では、看護師、理学療法士、薬剤師等を対象とした検討がなされている^{1) 2) 3) 4)}。本稿では、自己調整学習理論の枠組みに拠りながら、筆者のこれまでの国家試験に向けた教育実践を踏まえ、社会福祉士及び介護福祉士の国家試験の学習支援について検討していく。

2 目的

自己調整学習理論^{5) 6) 7)}の枠組みを用いて、社会福祉士及び介護福祉士の国家試験の学習について検討していく。

3 用語の定義

自己調整学習

メタ認知、動機づけ、行動において、自らの学習過程に能動的に関与して進められる学習のことをいう。

4 考察

(1) 国家試験に関する学習教材の分類

国家試験受験に向けた学習にあたっては、使用する学習教材が重要となる。学習教材を整理すると、「基礎知識及び重要知識の獲得と理解の学習に使用する教材」、「自身の到達度を理解するための教材」、「アウトプットのための教材」、「出題事項の予測を含めた学習教材」があげられる。

まず、「基礎知識及び重要知識の獲得と理解の学習に使用する教材」では、テキストや参考書、インターネットにおける各種サイト、行政の報告書・白書、行政出版のパンフレットなどが該当する。次に、「自身の到達度を理解するための教材」としては、模擬試験問題や過去問題集、模擬問題集などが該当する。そして、「アウトプットのための教材」は、主に一問一答式の問題集を中心に、上述した模擬試験問題や過去問題集、模擬問題集が該当する。

最後に、「出題事項の予測を含めた学習教材」では、行政の各種報告書や白書がある。この「出題事項の予測を含めた学習教材」については、少し説明しておく。国家試験の出題範囲は、大項目・中項目・小項目と分類され、示されている。出題は、大・中項目に沿って、具体的な問題が出されるが、何が出題されるのかを予想するのは容易ではない。試験では、最近の社会・福祉分野の動向を反映させた問題が出題されることもある。よって、直近の社会・福祉分野の動向を把握することで、得点に結びつく場合もある。そのための学習教材が「出題事項の予測を含めた学習教材」なのである。

これらの教材をいかに使いこなしながら学習を進めるかが合格の鍵となる。つまり、学習者は、どの教材を、どの場合に使うのかといった条件的知識が必要となるのである。

しかし、上述した背景から学習者はこの条件的知識が不足しており、結果、目の前の多くの教材に振り回されたり、うまく学習教材を活用できないまま

受験を向かえてしまうことになる。

そのため、教員は、学生が学習方略を獲得し自己学習が行えるように支援していくことが求められる。

以下では、自己調整学習理論に拠りながら具体的な支援について検討していく。

(2) 自己調整学習に必要な基本的な知識・スキルの獲得に向けた支援

まず、国家試験に関する自己調整学習に必要な基本的な知識・スキルについて述べる。筆者が必要と考える基本的な知識・スキルは以下の通りである。

- ① 国家試験に関する学習教材の特徴と活用目的について知っている。
- ② 行政が出している各種報告書・白書の存在と閲覧方法（ウェブ）を知っている。
- ③ ウェブにおいて、各種検索ができる（信頼性の順位付けもできる）。
- ④ テキスト・参考書の「索引」の活用方法を知っており、実際に活用できる。

教員は、まず、国家試験に関する学習教材特徴と活用目的の紹介、行政が出している各種報告書・白書の存在の理解の有無の確認と閲覧方法（ウェブ）の紹介、ウェブにおいて、これら各種の検索ができるかどうかの確認と方法について伝えていくことが必要である。

その他に、テキスト・参考書の「索引」の活用方法の確認と「活用できる」ように具体例を示しながら方法を伝えていくことも必要である。

以上の学習支援は、国家試験に向けた自己調整学習開始前の準備段階の支援となる。

(3) 条件的知識の獲得・発達に向けた支援

次に、自分の「知らない」「わかっていない」ことへの気づきのための学習支援である。自分の「知らない」「わかっていない」ことへの気づきは、国家試験の学習を深めていくために有効なものとなる。なぜなら、早期にどの分野が苦手なのか、何を学習していけばよいのかが明確になるからである。

これらのことは、国家試験における学習ではよく

言われていることである。

さて、例えば、A科目の問題1を解いたとする。そこで、自分の「知らない」「わかっていない」ことの把握ができたとする。では、そこからどのような教材を活用して学習を進めていくかという学習方略が具体的に示されていないと、学生は学習を進めていくことが難しい。

よって、自分の「知らない」「わかっていない」ことの把握以降の学習方略の獲得が学習者のニーズとなるのである。

つまり、具体的にどの教材を、どのように使用していけばよいかという条件的知識の獲得・発達に向けた支援が必要となる。

(a) 具体的な方略

まず、過去問題集もしくは模擬試験問題を解く中で、「知らない」「わからない」事項の把握を行う。そして、「知らない」「わからない」用語が出てきたとする。その際の学習の方法としては、以下の手順がある。

- ① 解説を読む。用語のチェック。
- ② 参考書等の索引で掲載箇所を確認し、実際に内容を確認する。
- ③ 関連する法律の条文を確認する。
- ④ それと同時に、ウェブ上で、関連する行政の資料の確認を行う。
- ⑤ 行政サイトパンフレットを確認して知識の整理。また、ウェブ上で実際の機関のホームページを閲覧する。

なお、以上の手順を筆者は「芋づる式学習法」と呼んでいる。この芋づる式学習法により、ピンポイントの内容と関連知識の学習が可能となる。

(b) 支援内容

まず、ウェブ上において、国の省庁や行政のサイトの閲覧方法及び信頼できる資料の取得方法を伝えることが必要となる。

手順としては、行政のホームページの紹介と白書などの報告書の掲載箇所について伝える。そのうえで、具体的な方法を伝える。伝える具体的な内容と

しては、例えば、筆者は調べたい事項の資料の取得方法について、「調べたい用語 + 関連すると思われる省庁名」を入れることで、信頼できる資料に行き着く可能性が高まることを伝えている（図1）。

次に、ウェブ上で条文が確認できることを伝える。国家試験では、法律の条文を原文で確認することが非常に重要となる。なぜならば、国家試験における設問は、条文を基にして問うものも存在するからである。よって、条文の確認が必要であるが、ウェブ上で検索できる方法を知っていれば、確認も容易にかつ効率的にできるようになる（図3）。

次に、ウェブ上で各種行政のパンフレットの取得方法を伝える。

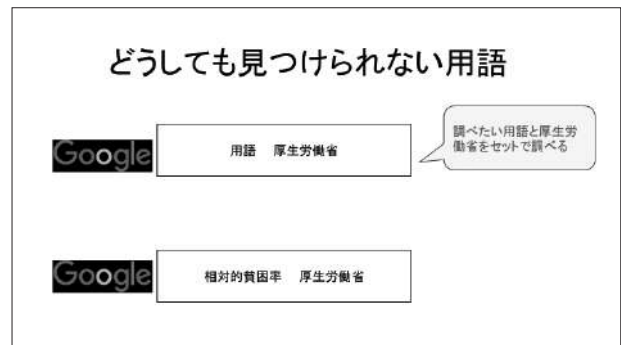


図1 資料の探し方を伝える①（筆者作成）



図2 資料の探し方を伝える②（筆者作成）



図3 ウェブ上での法令検索方法を伝える（筆者作成）

国の省庁や都道府県及び市町村が出している市民向けの各種パンフレット・リーフレットも国家試験の有効な学習教材となる。

パンフレット・リーフレットは、内容をコンパクトに整理してあり、なおかつ、視覚化を意識して、図表やイラストが多く使用されているからである。

このパンフレット・リーフレットを活用することで、これまで獲得した知識の整理（統合化）が図れる。基本的に、パンフレットは、テキスト・参考書、ウェブ上での資料を確認し、知識が頭に入った時点で使用すると効果的である。

これらのパンフレットの活用方法を伝え、国の省庁や都道府県及び市町村のウェブサイトのどこにパンフレットやリーフレットが掲載してあるのか、閲覧できるのかを学生に伝えていく。

以上が、「知らない」「わからない」用語が出てきた際の学習の方法として、学生に伝える内容となる。

（４）戦略的視点を持った国家試験対策

「出題事項の予測を含めた学習教材」の箇所でも述べたように国家試験の出題範囲は、大項目・中項目が示されている。これらは、もちろん網羅的に理解しておく必要がある。一方で、毎年、過去取り上げられなかった新たな事項が出題される。その出題事項は、直近の施策や制度、福祉の動向でのキーワードなどである。

例えば、第31回（平成30年度）社会福祉士国家試験の問題26（現代社会と福祉）⁸⁾においては、ヘイトスピーチが取りあげられた。よって、現在の社会や福祉の動向を理解しておくことで得点に結びつくことになる。では、どのような学習方法を学生に伝えればよいか。

現在の社会や福祉の動向を把握するのに役に立つのが、行政省庁が出している白書である。この白書を基に施策や制度、福祉の動向を把握しながら、次回に出題されそうな事項について確認していく。

その他、「内閣府」や「厚生労働省」のホームページには、直近の施策がまとめて掲示してあるため、これらのサイトを利用しながら動向を把握することもできる。ここでの動向を把握するとは、「現在、国は、何を重点に置いて、施策を進めようとしているのか」を理解することである。この理解ができれば、

出題される可能性のある事項も見立てができるようになる。

筆者はよく「国家試験は、国がアピールしたい、知っておいてもらいたい事項を出題すると言われていく」ということを話している。

学生には、白書を活用しながら社会や福祉の動向を把握し、出題される可能性のある事項を見立てていくことで、得点の上乗せを図れることを伝えていく。

（５）アウトプットの方法

国家試験勉強では、インプット、つまり知識を獲得していくことも大切であるが、それと同等にアウトプットの作業が重要となる。つまり、思い出す作業である。

多くの学習者はインプットに時間を費やし、アウトプットはおろそかになる傾向がある。よって、学生には、アウトプットの重要性と方法（テクニックも含む）について伝えていく必要がある。

まず、アウトプットの最も簡単な方法は、街を歩いていて目に入ってくる福祉関連の用語について、その都度、自身で説明をしてみることである。例えば、「社会福祉法人〇〇」と記載された車が走っているとすると。そうしたら、「社会福祉法人」についてどれだけ説明ができるかを試すのである。「社会福祉法人の理事は…、監査は…何人で…」といった具合である。そして、うまく説明ができなかったら、まだあやふやであるという確認ができる。

その他には、自身が教員になったつもりで、事項を取りあげて、声に出しつつ、紙にポイントなど書きながら（板書するようなイメージ）、説明してやることである。

このような方法を学生に伝えながら、アウトプットの方法についても伝えていく。

5 結論

以上、筆者が長年、国家試験の学習者に伝えてきた学習方法を基に述べてきた。

上述したように、国家試験学習は自己学習が中心となる。よって、学習方略を知らなければ、効果的な国家試験に関する学習はできない。

最後に、国家試験の学習は、メタ認知を働かせ、自身の学習の調整を自己で行っていく自己調整学習

のスキルが必要となる。そのため、国家試験対策においては、学習の最初の段階で、自己調整学習ができるための具体的なスキルを伝えていく必要がある。

参考文献

- 1) 三木研作 (2019) 「看護師国家試験合格を意識した能動的学習支援」『日本赤十字豊田看護大学紀要』14巻1号、17-26。
- 2) 唐沢博子・板山稔・藤田佳代子ほか (2020) 「動画配信を利用した学生主体のグループ学習 — 看護学部2年次の国家試験対策の活動 —」『目白大学高等教育研究』26号、2-30。
- 3) 越野八重美 (2019) 「理学療法士国家試験対策時の模擬試験結果と自己学習量との関係」保健医療学雑誌 10号

2巻99-106。

- 4) 沼尻幸彦・木村聡一郎・夏目秀視 (2018) 「薬剤師国家試験対策支援の取り組みを振り返って」『城西情報科学研究』25号、55-63。
- 5) 塚野州一・伊藤崇達・中谷素之 他 (2012) 「自己調整学習 理論と実践の新たな展開へ」北大路書房。
- 6) バリー・J. ジーマーマン・ディル・H. シャンク (2006) 「自己調整学習の理論」北大路書房。
- 7) 藤田正・富田翔子 (2012) 「自己調整学習に及ぼす学習動機および学習方略についての認知の影響」『教育実践開発研究センター研究紀要』21巻、81-87。
- 8) 社会福祉振興・試験センター ホームページ < <http://www.sssc.or.jp/index.html> > 2020年10月20日最終閲覧。

受付日：2020年10月28日

